

# 体験教育



編集／体験教育編集委員会  
 発行／学校法人 明星学苑  
 東京都府中市栄町一丁目  
 ☎〇四二二六八五二二  
 制作／信濃印刷㈱

## 目次

### 幼稚園

- 星まつり 2
- 運動会 3
- 日々の保育 4

### 小学校

- 一年生グーグルクラスルーム 5
- 二年生くぬぎの時間 5
- 三年生校外学習 5
- 四年生心に残る「オリンピック」に！ 6
- パラリンピックイヤー！ 6
- 五年生くぬぎの時間 7
- 現代米と古代米の比較を通して 7
- 生命の神秘に触れる 7
- 「理科」メダカの誕生 7
- 六年生くぬぎの時間 7
- キャリア教育スペシャルトークショー 7
- メディアアールーム完成 8
- 表現したくなる空間へ 8

### 中学・高等学校

- 「中高一貫コース」 9
- 中学二年 学年主任 佐藤誠司 9
- 中学体育祭を終えて 9
- 体育祭運営委員 中学三年二組 高尾祐人 10
- チームワークの力 10
- 中学生徒会長 中学三年一組 大澤茉央 10
- 明星祭運営委員の取り組み 10
- 明星祭運営委員長 高校二年十三組 池藤 傑 11
- 隣に居られなくても 11
- 高校生徒会長 高校二年十二組 木越詩乃 11
- 高校二年本科総合的な 11
- 探求の時間の取り組み 11
- 担任 武山新也 12
- 英語科の新しい取り組み 12
- : Global Competence Program (GCP) 12
- 英語科 黒瀬勝利 12
- 受験生の心境 13
- 高校三年 MGS 担任 柏木 宏 13



今年度の星まつりはホールでクラスごとに開催をしました。  
 年少組は絵の具でヨーヨー絵画制作、年中組は提灯、年長組はクラスで七夕飾りの制作をしました。それぞれの作品が飾られたホールは、普段と違うお祭りの雰囲気があり、子どもたちはワクワクと目を輝かせていました。七夕のお話のペープサートはどの子も興味津々に聞き入り、七夕の由来や意味を知ることが出来ました。ヨーヨー屋さんでは色とりどりの模様のヨーヨーを見て「これにする！」と自分で決め、お玉でくい、わなげ屋さんでは景品のかごに輪が入ると「やったー！」と喜ぶ表情がとても印象的でした。  
 今年度も例年より縮小した形での開催となりましたが、クラスごとに順番で太鼓を叩いたり、お友だちと一緒に盆踊りを踊ったり、お祭りの雰囲気を存分に味わうことが出来ました。お部屋では、お互いに景品を見せ合い、ジュースの会食をして、特別な一日を満喫することができました。



「どこにつける？」  
みんなで相談！



園長先生がヨーヨーの  
取り方を教えてくれたよ！



七夕に向けて笹飾りを  
作りました



「みんなで盆踊り！  
上手に踊れたかな？」



七夕のペープサートを見ました！



好きな色を狙って…  
ゲットしたよ！



ヨーヨー屋さんにて  
これください！(年中)



一人ずつ順番に  
大きな太鼓を叩きました



好きなものを  
狙って…エイ！





運動会

九月三週目から待ちに待った二学期がスタートしました。二学期は子どもたちが様々な体験や経験をするチャンスがたくさんあります。年長組は幼稚園生活最後の運動会。夏休み明けから当日の係活動の話し合いを始め、一人ひとりがそれぞれのイメージを膨らませていきまして。リレーではどうしたら勝てるかをクラスで話し合い、当日まで心をついに頑張りました。年少組は「運動会って何？」からのスタートでしたが、初めての運動会にドキドキしながらもみんなで一緒に活動する楽しさや表現する喜びを感じながら過ごしました。年長組が部屋のテラス前を訪れ、鳴子やチャリダーの踊りを披露してくれると、その様子をじっと見つめ、時には一緒に踊ったりしていました。きっとお兄さん・お姉さんへの憧れの気持ち膨らんでいたことでしょう。大人気のチャリダー係は、年少組の頃に持った憧れの気持ちを年長組



“金メダル” 目指して、親子でGO！（年長）



みんなでパラパールの練習頑張ったよ！（年中）

かけっこ、よーいどん！がんばれ～（年少）

かっこいい走りをたくさん見せてくれました！（年長）



みんなでたくさん練習したよ！（年少）



初めての運動会ではオランウータンに変身したよ！（年少）



メリーゴーランドの技も上手に決まりました！



みんなで玉入れ頑張れー！！（年中）



年長の鳴子にはパワーを感じました！





までしっかりと覚えている子もいます。園生活での様々な経験を経て、自信に満ち溢れた姿で堂々と小さいクラスのお友だちに披露する姿は、明星幼稚園で最も大切にしている事の一つでもある「三年間の成長」そのつながりを感じる瞬間です。

年中組も年少組の頃の経験をもとに憧れのお兄さん・お姉さんが頑張っていたパラバルーンの演技をクラスごとに行いました。クラス全員で広げるパラバルーンは直径7メートルの大型で難しく、はじめの練習ではうまくいかなかったことも、お友だちと力を合わせ、繰り返し行う中でリズム感、反射神経、想像力、表現力、協調性が養われ、音楽や笛の合図に合わせて、技が成功するようになりました。みんな力で合わせて協力する大切さや技が完成した時の喜びを味わいながら、当日はどの子も堂々として見えました。

例年よりも少ない練習回数の中、どの学年も日々の保育活動の中で得た「憧れの気持ち」「友だちと一緒に楽しむ喜び」「嬉しさ」「喜び」を積み重ね、大きく成長した姿を見せてくれました。

**日々の保育**



小学校の先生に色々教えてもらおう！（のびのびタイム）

たくさんお芋掘れるかな？



収穫した枝豆を食べるために準備をしているよ！



大きな紙にみんなで「さつまいも」の絵を描いたよ！

ちゅーりっぷの球根を植えました。大きくなーれ！



毎年恒例、お月見飾り！お月様にも興味津津！

お米の稲刈り よ〜く見てみるとお米がたくさん！



学苑内散策でアンパンマンの仲間たちを探したよ！

ちゅーりっぷを植えるための植木鉢は一人ひとりのオリジナル！





# 一年生 Google クラスルーム

「先生、昨日の動画、面白かったです。」

まだ、入学して間もない一年生が教員に声をかけてくれました。例年、あいさつをするのも心細そうな一年生が、今年は少し違います。気軽に声をかけてくれる秘密は、定期的に送るオンラインの課題にありました。

学年団では、オンラインを活用して子どもたちの学びを広げられないか考えていました。通常、オンラインでの課題は、教師から提示し、それに答えるという流れでした。算数なら計算練習、国語ならひらがな・漢字練習という課題。計算や文字を書く力を育む上では効果がありますが、ドリルの学習とあまり変わりません。オンラインのよさを生かし、学習の幅を広げられないかと、話し合いを重ねました。そして、オンラインを使った算数の「説明動画」に辿り着きました。



課題作成に当たり、一年生が持っている「色々なことを知りたい。」という気持ちと、「できたことを教えた。伝えたい。」という気持ちを生かして動画を作成しました。まず、動画の中では、教員が先生役と児童役に分かれ、面白く演じま

した。黒板を使い、先生役がまるで本場の授業のように問題を出す場面を作りました。次に児童役が、問題をうまく解くことができない場面を作りました。この場面は授業で、子どもたちが説明しあっているところを想定して作成しました。実際に授業でつまづいたところや、繰り返し説明を行った部分に絞って考えさせるようにしました。

実際に自分が説明するという課題を出す、反応よく、多くの子が説明動画を撮って送ってくれました。動画の中では、普段発言しない子が大きな声で説明したり、自宅にある紙やホワイトボードで説明したりしていました。繰り返し説明する中で、段々と説明が上手になっていく子どもいました。

保護者の方からは、「動画を撮りながら、学校での子どもの姿を思い描くことができました。」という声を耳にしました。授業参観が行えない中、この取り組みがお子様のことを知る一つの手段になっていたことは、予想外の効果でもありました。



今後は、算数だけでなく他教科にも広げ、説明する力を中心に課題を作成していきたいと思えます。

最後に、保護者の皆様のサポートなしに、Googleクラスルームの課題を一年生が行うことはできません。ご理解ご協力に心より感謝申し上げます。  
(文責 一年生)

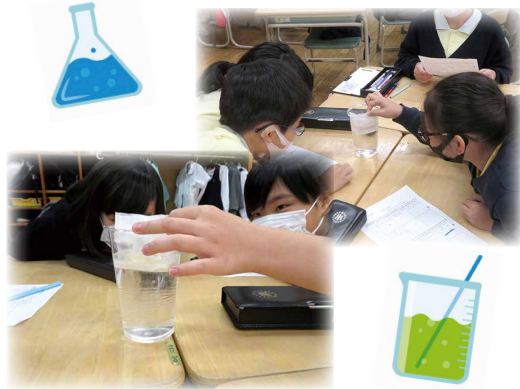
## 一年生 くぬぎの時間

くぬぎの時間では、体験を重視して、様々な活動にチャレンジしていきます。

くぬぎの時間には、「低学年理科」の要素も含んでおり、理科的な実験の学習も行っています。十月には、二週にわたり「物の溶け方」の実験を行いました。一週目は、塩、角砂糖、水砂糖、コーヒースユガー、洗濯剤、入浴剤の六つが、それぞれ水に溶けるかどうか、予想を立ててもらいました。ほとんどが「溶ける」との予想でしたが、半数が「溶けない」と予想したのも。水砂糖は硬そうなので、コーヒースユガーは熱いお湯じゃないので、という理由から意見が分かれていました。自分の予想とそう考える理由を、グループで発表し合い、討論を行いました。



いよいよ二週目。この日は、予想を実験で確かめる日です。



塩をお茶パックに入れて、水につけると、何やらもやもやしたものが流れ出てきました。これは「シュリーレン現象」。水や空気のような透明な物質の中で、部分的な密度の違いによって光が屈折し、もやもやが見える現象のことです。みんな大喜びで、水と溶かすものを取り換えながら楽しんでいました。結果、溶けやすさに違いはあるものの、用意した全てが水に溶けることが分かりました。「どれだけ溶けるか試してみたい!」「お湯ならもつと溶けるんじゃない?」興味がどんどん広がっている様子でした。

(文責 二年生)

三年生 校外学習

十月二十八日、暖かい秋の日差しが心地よい中、三年生になって初めての校外学習として「高尾の森わくわくビレッジ」に行ってきました。

この一年半、学年全体で集まることさえ、ほとんどできなかった中で、久しぶりに大空の下、みんなで体を大きく使って活動しました。今回実施したのは「プロジェクトアドベンチャー」という活動です。アドベンチャー体験から学ぶアクティブ・ラーニングプログラムです。体験をする中で「気づき」を得て、互いの理解を深めていくということを重ねらしている、この冊子の題名でもある「体験教育」と多くの部分で通ずるところがあると思います、今回、実施を決めました。



グループの友達のことを信頼してないと行うことができない活動が多くありました。この半年で養った互いへの信頼感をしっかりと表現することができていました。



今回、このような状況下で校外学習が成功させられたのは、保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそだと思っています。ありがとうございました。

(文責 三年生)

四年生

心に残る「オリンピック・パラリンピックイヤー」に！

四年生はくぬぎの学習で、オリンピック・パラリンピックでがんばるスポーツ選手に注目。ご存知、車いすテニスプレーヤーの国枝慎吾選手は、今大会では、見事に金メダルを獲得しました。水泳の池江璃花子選手が、病を乗り越え、オリンピックの代表に選ばれたことも話題でした。このようなスポーツ選手の活躍に子ども達は、ただただ「すごい！」と目を輝かせ、「共生」をキーワードに学習することにしました。

まずは、目の不自由な方が取り組むサッカーについて、選手からオンラインでお話を伺いました。「目が見えなくなるときは、幸せではなかったけれど、今は、幸せです。次のパラリンピックに向けてがんばります。」といった話に心を打たれました。

夏休み中に、選手を応援した子どもたちが多く、夏休み明け、教室では、オリンピック・パラリンピックの話題でもちぎりでした。パラリンピックのポッチャ競技で金メダルの杉村英孝選手の試合をビデオで振り返り、ライブさながらの歓声で応援しました。



次なる子どもたちの関心は、障がいのある方は、いったいどんな生活をされているのだろうか？ということでした。そこで、視覚に障がいのある方にご来校いただき、お話を伺い、「思いやり」について考えました。

相手の困りごとを想像するだけでなく、勇気をもって、声をかけて助けてあげたいという感想が多く聞かれました。今後は、一人ひとりが感動したり疑問に思ったりしたことから、自分のテーマを見つけて、追究しながら、心に残る一年としたいと思います。

(文責 四年生)



### 五年生

#### くぬぎの時間

「現代米と古代米の比較を通して」

五年生は、くぬぎの時間でお米作りを行いました。学校の田んぼに、現代米（白米）と古代米（赤米）を半分ずつ植え、二つを比較しながら、立派な稲に生長していく様子を観察しました。

まず初めに、古代米は国分寺古代米プロジェクトの方に来校していただき、古代米の歴史や苗の育て方、田植えの仕方を丁寧に教えていただきました。

毎日、牛乳パックを使って種から育てた苗の生長をiPadに観察記録として残し、生長の過程を実感し、社会科の授業でも米作りの盛んな地域の学習と並行しながら学びを深めていきました。

その後、自分たちで育てた苗を丁寧に田んぼに植える日は、現代米の田植えとはまた違った喜びを感じていました。



#### 生命の神秘に触れる

「理科「メダカの誕生」」

理科「メダカの誕生」では、ゲストティーチャーにご協力いただき、グループごとにメダカを育て、産卵から誕生までを熱心に観察しました。オンラインによるゲストティーチャーとのまとめの学習では、より多くの卵を孵化させる方法や品種改良についてなど、自分たちが飼育したからこそその質問がたくさん出されました。

学習を通して、生命の神秘を感じ、小さな命を愛おしむ、そんな子どもたちの姿が見られました。



(文責 五年生)

#### 六年生 くぬぎの時間

キャリア教育 スペシャルトークショー

六年生は「くぬぎの時間」で、自分の将来について考えたり、社会と自分との繋がりを考えたりする活動を行っています。特に「キャリア教育スペシャルトークショー」では、ゲストの方の仕事への思いや経験を聞き、職業への関心を高め、自分の将来について考える貴重な時間となっています。今年度はこれまで二回のトークショーを行いました。

一回目のゲストには、映像制作会社を立ち上げ、様々な動画制作や配信を行っている方をお迎えしました。なぜ今の仕事を選んだのか、仕事をすることで気をつけていることは何か、動画を制作するときのポイントなど、いろいろな話をしてくださいました。六年生は今後、SDGsをテーマにした映像作品を作る課題にチャレンジしていくこともあり、興味津々で話を伺い、機材のことや、撮影の方法などについての質問をしていました。

二回目のトークショーでは、主に動物に関する書籍のライターをされている方をゲストにお迎えしました。ゲストの方が今の仕事に就くま

での経緯や、どのような思いを持って仕事をしているのかなど、話を伺うことができました。さらにゲストの方は、「野良猫の保護、里親探し」のボランティア活動を行っており、野良猫が多くいる現状や里親探しの難しさなどについてもお話を伺うことができました。動物への関心が高い児童も多く、伺ったお話から自分のできることはないかと考えていました。



春には中学生となり、新たなステージに立つ六年生にとって、自分から何か何をしていきたいのかを考える時期になっています。このような経験をもとに、自分の将来について考え、その将来に向け、今できることは何か見直していく機会をこれからも大切にしていきたいと思えます。

(文責 六年生)



**メデイアルーム完成**  
 ～表現したくなる空間へ～

これまで二階にあった「コンピュータルーム」は、改装して三階へと移り、「メデイアルーム」として生まれ変わりました。

コンピュータルーム改装が行われるにあたって目標にしたものは、大きく二つあります。一つ目に、これからの時代(Society5.0時代)を生きる子どもたちにとって、求められる力(創造力、論理的思考力、発信力などの人間としての強み)を育める最適の教室を作ること。そして二つ目は、児童が自分の考えや思いを表現したり、発信したりするために必要なものを取り揃えた教室にすること。これらの二つを目指して様々な機器が導入されました。

**アクティブラーニングの実現**

新メデイアルームは児童が必要とする映像資料・画像資料を提示するのに最適な設備が揃えられています。三台のプロジェクトが設置されていて、それぞれのプロジェクトで別の画像を投影することができ、また、ボタン一つで同じ画像

を三つのプロジェクトで投影することもできます。Google Earthで現地の画像を三画面で映し出したリ、三つのグラフをそれぞれ映し出して比較したりなど、様々な教科で使い分け、アクティブラーニングを実現することもできます。

また、それぞれのプロジェクトには、二画面表示機能があり、インターネットに接続することもできるため、最大で六つの資料を提示することも可能となっています。

**プレゼンテーション力の育成**

これからの子ども達は、多様な形態でのプレゼンテーションの力に身に着けていく必要があります。そのためには、それに対応できる空間が必要となります。

三台のプロジェクトを活用することで「一斉発表形式」や「ポスターセッション形式」を場面に応じて取り入れ、多くの児童が、探究を進めた内容をプレゼンテーションする機会を確実に設けることができる空間となっています。

**プログラミング教育にも効果的**

全学年の各教科の中や、「総合的な学習の時間」の中で実施されてい



る「プログラミング教育」では、プログラミングに関する様々な体験を通して、技能を身に付けていき、児童が表現したいものをプログラミングでできることを目指しています。

プログラミングの学習では、試行錯誤を繰り返し、児童が自らプログラムして表現したものを共有することで、それを見聞きした別の児童がさらに発展させ、より多くのアイデアがプログラムとして実現されていきます。三台のプロジェクトにはApple TVがそれぞれ設置されているため、子どもたち自身が自分の画面を投影することも可能です。「伝えたい」と思ったその瞬間に映し出し、「学び合う」ことのできる空間になっています。



# 「中高一貫コース」

中学一年 学年主任 佐藤 誠司

本年度から中学校は、特別選抜クラス、総合クラスからなる「中高一貫コース」を新設いたしました。テーマは、「新しいことをやる」ということです。そこで、今までの概念にとらわれない斬新な取り組みをおこなっています。まず、その一つ目は、「中間考査の廃止」です。これは、大きなテストのために勉強するので



校外学習パナソニックセンター



校外学習パナソニックセンター

はなく、単元テスト、小テストなどを頻繁におこない、普段の学習活動を定着させようという狙いでありま  
す。二つ目は「目に見えない学力を  
養う」ということです。各教科の授  
業では、自分の学習の成果を発表し  
たり、仲間と協働しながら「学び」  
を深めていけるような学習活動を増  
やしております。三つ目は、「活躍

力を身につけさせる」ということで  
す。六年を大きく四年と二年に分け  
て、生徒を成長させます。中学一年  
では、AIロボット作成や科学分野  
を学ぶ校外学習をおこないました。  
今後は、様々な分野で活躍している  
方々との交流などを通じて幅広い視  
野をもった生徒の育成をしていき  
たいと考えています。  
一貫コースのコンセプトは、明星  
の「星」にちなんで、STARです。  
「S」: Smile 「T」: Try 「A」:  
Ace 「R」: Respect という意味が  
込められています。生徒には、常に



TGG

このコンセプトを意識して成長して  
いって欲しいと思います。また、生  
徒が掲げた目標は「仲間を思いやる  
150人」です。学年のコンセプト  
にもとづいて学年推進委員たちで考  
えたものになります。様々なことが  
ありながらも自分たち自身で助け合  
い、支え合って、日々成長してい  
く姿が見られます。  
二〇二三年に一〇〇周年を迎え、  
明星の次の一〇〇年を担っていく先  
駆者となって大きく育ってもらいた  
いと願ひ、私たちも一緒に成長して  
いきたいと思ひます。



AI ロボット作成

## 中学体育祭を終えて

体育祭運営委員  
中学三年一組 高尾 祐人

今年の体育祭は、コロナ禍ということもあり企画、準備、運営がとて難航しました。例えば、準備をするときはマスクをして、また人と接触するときには軍手をして準備をしました。競技中も基本的にマスクをして自分の番が回ってきた時に限りマスクを外して競技に取り組んでいました。また前日から降り続いてい



た雨により、準備もできず翌日の開催となり、当日の朝に準備せざるおえませんでした。生徒の協力によりとても早く終わらせることができました。先生方のご厚意により去年よりも競技数が増えました。体育祭が終わったあと、全員が疲れているにもかかわらず役割を分担することにより片付けがスムーズに行えました。

結果的にはマスクや軍手をしての体育祭にはなりましたが、全員が楽しめた体育祭になったと思います。



全学年 玉入れ

## チームワークの力

中学生徒会長  
中学三年一組 大澤 茉央

生徒の皆さん、今年度の体育祭はいかがでしたか？一年生は初めての学校行事でしたね。二年生は学年の仲間と楽しめましたか？三年生は最後の体育祭となり、競技、集団演技を通し絆を深められたと思います。どの学年、クラスも体育祭で一丸となって取り組むことができ、良い思い出ができたと思います。

私は今回の体育祭を生徒会長という立場で参加させていただきました。二度目のコロナ禍の体育祭とい



中2 因幡の白兔

うことで昨年体験した反省をいかすことができました。昨年は副会長という立場で、準備段階では生徒会の先輩方から割り振られた仕事を行なっていました。今年は体育祭の成功の責任と仕事の分担、みんなをまとめられるの不安がありました。生徒会役員の協力で乗り越えることができました。今年は生徒会の意志もあり、生徒会六人で入場行進を行うことができ、生徒会というチームでさらに団結できたと感じしました。

来年はコロナが収束し、保護者の方々にも来ていただけるようになれば良いと思います。



中3 集団演技





### 明星祭運営委員の 取り組み

明星祭運営委員 委員長  
高校二年十三組 池藤 傑

こんにちは。今年の明星祭運営委員長を務めさせていただきました池藤傑です。今回は主に装飾と総務の活動に関わりました。ここでは今年の明星祭準備活動の様子と共に、この委員会の魅力について語ろうと

思います。

装飾班の活動のひとつとして、前回の明星祭で作成したステンドグラスといらなくなった傘を組み合わせて中央階段上部の飾り付け作るといふものがありました。この製作では、皆で傘の模様や配置の仕方などデザインを考え、作業を分担しながら各自取り組み、その結果非常に綺麗なものができました。デザインを考えるとすることは美術の授業内容に重なるものもありますが、明星祭で作るのは個人規模ではなく団体規模で、皆で知恵を出し合って作るもの



中央階段の装飾

なので、このような機会でないとなかなか得られない経験だと思えます。また、そうして頑張った装飾が実際に飾られたときの達成感というのも、感慨深いもので、運営委員会の大きな魅力のひとつだと思います。実際私は中学三年生の時にそのように感じて、もう一度参加したいと思い、今年の活動に参加しました。

今年の明星祭は残念ながら規模縮小での開催となってしまいました。が、感染症の流行が収まっていけば、例年通りの開催もゆくゆくはされていくと思います。この記事を読んで少しでも明星祭運営委員会に興味を持つてくれた方は、その時は是非とも運営に参加してみてください。

### 隣に居られなくても

高校生徒会長  
高校二年十一組 木越 詩乃

これを読んでいる皆さんは、既に今年の明星祭をやりきったんですね。どうでしたか？明星祭が大切な思い出になったでしょうか？誰もが笑顔で「もちろん！」と答えているのを期待して、あと10日に迫られた

私はわくわくしながら最後の仕上げにかかっているところです。

コロナ禍で二年ぶりの開催となった明星祭。今日のような世の中によるハンデを背負い、一度も明星祭を体験したことがない私は、明星の伝統行事を担うことに大きな不安を抱いていました。準備期間に分散登校があったことで仲間が全員集まることは少なく、外部の入場も禁止され、さらには二日間の開催が一日に短縮されてしまいました。全ては皆さんの安全のための配慮ですが、どうしても孤独感が拭いきれませんでした。

でも、準備していく中でそんなに悩む必要はなかったことに気づきました。保護者の方向けに明星祭を100%伝えることができるHPを作成したり、バトンを繋ぐように情報を共有しながら少しずつ作業をすすめたり。お互い隣に居なくても、インターネットで、心で、笑顔で繋がれることはできるんです。今まで準備を共にしてきた明星のすべての人が証拠です。明星祭を開催するためにやる気を絶やさずに協力してください、本当にありがとうございます！！

今度は私が皆さんにお礼をする番です。明星祭、めいっばい楽しいんできます！！

### 高校二年本科総合的な 探求の時間の取り組み

担任 武山 新也

高校二年本科では、昨年度は地域の課題解決型学習として社会人の方々や団体の協力を頂きながら、地域の問題を捉え解決に貢献する活動を行いました。本年度は、NPO法人「envo」の協力のもと、全国各地の社会事業家（事業を通して地域の課題や社会問題を解決する経営者）の方々との交流を通して商品の販売促進や事業戦略を学び、販売体験により成果検証をする活動（Mission On the Ground）を行っています。また、昨年度の地域の課題解決学習も社会活動として継続し、国分寺市



豊洲スタイルマーケットでの出店



本町南町八幡神社での販売会の様子

の方々との協働によって地域とSDGsのゴールに貢献するための活動に取り組んでいます。

今回国分寺市で活躍されている地域の方々の協力を賜り「ぶんぶんウォーク2021」（※今年度はぶんぶんウォークとしてまちをひろく分散しながら巡回再発見する企画。十一月十九〜三十日の間実施）と豊洲スタイルマーケットへの参加をさせて頂いたことになりました。ボランティア活動や販売活動を実施させて頂いたことで、幅広い世代の人々との交流を深め、地域のイベントとして成功させることを目的とします。また、SDGs（持続可能な開発目標）ゴールのうち13番「住み続けられるまちづくりを」17番「パ

ートナーシップで目標を達成しよう」を達成の指標とし、その過程で社会活動に必要な知識・判断・表現を体験的に学ぶ機会としていきたいと思っています。



販売会ポスター

**英語科の新しい取り組み**  
: Global Competence Program (GCP)

英語科 黒瀬 勝利

二〇二一年度より新たに導入した本プログラムは現在、中一、中三、高一本科、高二MGが取り組んでいます。専門の外国人教師と日本人英語教師によるチームティーチング形式の授業を通して生徒は「グローバルに知る・考える・表現する」方



GCP授業風景

法を習得します。中学では従来の『英会話』の時間に代わって、高校本科では『コミュニケーション英語』の一部の時間に実施しています。これ



GCP授業風景





GCP授業風景

までのネイティブ講師による会話練習とは一味違い、現実的なトピックを取り上げながら情報を収集し（知り）、一人一人の生徒が適切に処理し（考え）、最終的にリアルな現場へ戻していく（表現する）PBL活動（Topic Based Learning）を行います。使用する教材も多様で、トピックごとに配布されるワークブックはもちろん、GCP専用のアプリを通じてつながる様々なブラウザを総合的に活用します。たとえば、各Unitの学習に向けて予習に取り組むためのウェブサイト、学んだ内容をクイズ形式で復習する際に使用する Kahoot、表現手段の一つとして使用する Canva、それを学内外で問わず多くの仲間と共有できるポ

トフォリオサイトなど、ICTをフルに活用しながらグローバル社会の中でグローバルな問題をグローバルに解決する練習をしています。

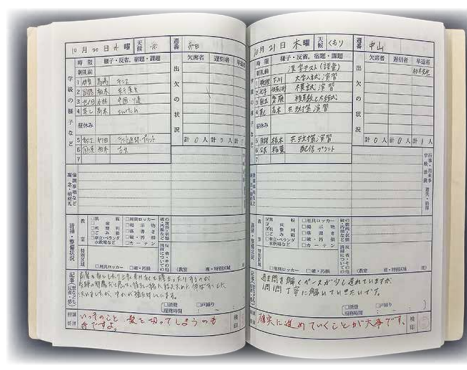
### 受験生の心境

高校三年MGS担任 柏木 宏

受験勉強の真っ只中にいる高校三年MGSの生徒たちの様子や心境を、学級日誌の記事を基に紹介します。

七月上旬、各クラスで企画した研修旅行を終えて、受験勉強中心の生活が本格的に始まりました。

「さようなら、すべての学校行事。」  
「研修旅行でリフレッシュしたので、



学級日誌

明日の模試でコケないか心配です。」  
「最近、一日の時間が短く感じます。」  
「進路のことを考えすぎて、泣きそうになる日もあります。」

コロナ禍で学校での活動が制限される中、七月中は受験科目に特化した特別授業を毎日続けました。八月後半には希望者を対象にした夏期講習を行いました。そして、「受験の天王山」と言われる夏が終わりました。九月になると、生徒たちの気持ちに焦りが出てきたようです。

「夏休みがあつと言う間に終わり、焦っています。」

「もっと時間が欲しいです。」  
「夏休みの勉強が、点数にあまり結びついていません。」

「クラスの雰囲気が変わりました。」  
十月になり、日曜日には三週連続で模擬試験を行いました。生徒たちは二十七日間連続で登校し、心身共に少々疲れ気味の様です。

「月日が過ぎるのが早いです。」  
「一日が終わることに、寿命が擦り減っていくのを実感します。」

「共通テストまで百日を切ったので、気を引き締めたいです。」

「本番がだんだん近づいてきているので、カレンダーを見るのが怖くなってきました。」

「日曜日が無いと疲れるけど、毎日みんなと会えるから頑張れます。」



MGS自習室風景

今、私がこの原稿を書いているのは、十月の終わりです。十一月になると、模擬試験の個人成績表が次々と返ってきます。模擬試験の結果に一喜一憂することなく、第一志望校の合格を目指して受験勉強に励んでほしいと思います。

十二月になると、共通テスト対策特別演習が始まります。高三MGSの生徒たちが一丸となり、一月中旬の共通テスト本番に向けて総仕上げをしていきます。

これからも毎日のように、学級日誌には生徒たちの不安や焦り、悩みなどが多く綴られることでしょう。学級担任として生徒たちの気持ちを受け止め、生徒たちをより良い方向に導いていきたいと思っています。